

令和3年度富山県委託事業
はつらつ公民館学び支援事業
活動報告書

地域振興型



避難所設営体験

体験交流型



自然体験活動



課題解決のための視察研修



伝統文化の伝承



ガーデニング教室



AEDの使い方講習会



火起こし体験



プログラミング教室

富山県公民館連合会

目 次

型	事業実施公民館等		ページ
地域振興型	黒部市	荻生公民館	1
		若栗公民館	3
	南砺市	東太美地域づくり協議会	5
		南山田地域づくり協議会	7
	上市町	宮川公民館	9
	体験交流型	富山市	奥田北公民館
高岡市		牧野公民館	12
		古府公民館	13
		福岡公民館	14
射水市		戸破コミュニティセンター	15
魚津市		村木公民館	16
氷見市		女良公民館	17
滑川市		滑川東地区公民館	18
		山加積地区公民館	19
黒部市		生涯学習文化スクエア	20
		浦山公民館	21
		下立公民館	22

型	事業実施公民館等		ページ
体験交流型	砺波市	出町公民館	23
		青島公民館	24
		梅檀山公民館	25
	南砺市	吉江地域づくり協議会	26
		広瀬館地域づくり協議会	27
		南山見地域づくり協議会	28
		石黒地域づくり協議会	29
		北野地域づくり協議会	30
	舟橋村	山野地域づくり協議会	31
		舟橋村公民館	32
	上市町	柿沢公民館	33
	入善町	飯野公民館	34
		上原公民館	35

※体験交流型では、各公民館の活動で顕著なものを報告書の右上に表で示しました。

はじめに

私たちが住む「ふるさと富山」は、3,000m級の立山連峰と、水深1,000m以上を誇る富山湾を有し、雄大で美しい自然に恵まれています。また、大伴家持がこの越中で多くの歌を詠むなど、歴史や文化の香る富山とも言えます。

人は生まれ育った地域の自然や歴史、文化などを知ることによって、ふるさとへの愛着と誇り、感謝の気持ちを抱きます。そこで、幼い頃から地元の自然や文化に親しみ、大切に体験は、豊かな人間性を育むとともに、想像力を伸ばし、探究心を育てるなど、人格の形成に大きな効果が期待できるものと考えます。

○ 富山県公民館連合会では、平成20年度から、将来を担う子供たちがふるさとに育まれて健やかに成長することを願い、公民館を拠点に子供たちのふるさとの学びや身近な自然体験活動を推進する事業を実施してきました。

また、中教審答申「人口減少時代の新しい地域づくりに向けた社会教育の振興方策について」(平成30年12月)の中で、「公民館など社会教育施設には、住民参加による課題解決や地域づくりの担い手の育成に向けて、住民の学習と活動を支援する機能を一層強化することが求められている」と示されていることを受け、令和元年度から、人生100年時代に向け、公民館を拠点とした地域課題の解決に向けた「学び」のモデル的な活動の支援を加え、「はつらつ公民館学び支援事業」を実施しています。

○ 本年度の報告書には、事業実施公民館等が新型コロナウイルス感染症に配慮して、企画・運営した子供たちの地域への愛着と誇りを育てる実践や地域の絆づくり・人づくり、活性化につながる事例が紹介されています。これらの実践事例に基づいて、公民館が社会の変化に即した活力ある地域づくり・人づくりの拠点となり、地域の絆づくりが一層推進されることを願っています。

終わりに、本事業の実施ならびに活動報告書の作成にあたり、ご協力いただいた多くの皆様にご心より感謝申し上げます。

令和4年3月

富山県公民館連合会

会 長 中 西 彰

地域振興型

【地域振興型】

黒部市立荻生公民館

◆地域の概要

- ・荻生地区は、黒部川の清流に育まれた田園と緑豊かな地域です。
- ・近年、高速道路のインターチェンジができ、北陸新幹線「黒部宇奈月温泉駅」にも隣接する県東部の玄関口として期待されています。
- ・地域の高齢化が進む半面、地区内の宅地開発により若い世代の住民も増えています。

◆地域課題

- ・「荻生歴史散策マップ」と郷土史「荻生の郷」の発刊を受け、令和2年度にボランティアガイド組織『荻生まち歩きの手帳』が発足しました。
- ・地域の史跡について学習し、「まち歩きの手帳」を開催して荻生の魅力を地区内外の人に広く知ってもらい、地域の活性化を図ります。

◆事業の流れ

実施日	場所	活動内容	参加人数
5月22日(土)	荻生地内	「春のまち歩き会」の開催 ・称名寺～長屋～中村 コース	20名
7月3日(土)	市内(生地)	視察研修 ・黒部観光ガイド「生地まち歩き」との交流	17名
10月2日(土)	県内(朝日町)	視察研修 ・あさひガイドグループとの交流	15名
11月20日(土)	荻生地内	「秋のまち歩き会」の開催 ・小学校～西小路 コース	30名
通年	荻生公民館	・地域内の史跡等について学ぶ勉強会(2回) ・「紙芝居作り①」(8回)	延51名

◆事業の様子

☆ 「春のまち歩き会」

稱名寺～長屋～中村 の史跡を「荻生まち歩き会」の会員と地区内からの参加者で巡りました。

普段は車で通りすぎる場所に意外な名所があることを知る事が出来ました。

同コース3回目の開催でガイドもスムーズに行えていました。



☆ 視察研修「生地まち歩き」と黒部観光ガイドとの交流会

初めての先進地視察研修で、「生地まち歩き」を体験しました。

実際に歩いて景色を見たり、清水の説明を聞き、実際に触れたり楽しい時間を過ごせました。

交流会では、ガイドの心得を教えてくださいました。



☆ 視察研修「泊まち歩き」とあさひガイドグループとの交流会

「街道 泊 まち歩き」を体験しました。宿場町の街並み、芭蕉の句碑等説明と泊の歴史を話して頂きました。

交流会では、まち巡りのコース作りについて教えてくださいました。



☆ 「秋のまち歩き」

小学校～西小路 建造物(史跡)のない場所でのガイドに挑戦しました。当時の体験談等を交えて解りやすく説明できました



☆ 紙芝居作り

稱名寺～長屋～中村コース

伝説「お登勢と大蛇」を紙芝居にしました。



◆事業の成果と課題

先進地への視察研修と交流会で、人と人とのコミュニケーションが一番大切だと学びました。「春のまち歩き会」のコース内の伝説「お登勢と大蛇」を紙芝居にし、県民カレッジのまち歩き会と保育所で披露し好評を得ました。

地域の歴史・史跡について勉強し、「まち歩き会」の参加者や若い世代に荻生の魅力を紹介することで地域の活性化に役立てたいです。

【地域振興型】

黒部市立若栗公民館

◆地域の概要

- ・本地区は黒部川の源流北アルプスから富山湾に至る、緑ゆたかな名水の里です。
- ・黒部市の中心に位置し、北陸新幹線黒部宇奈月温泉駅があり緑豊かな地域です。

◆地域課題

- ・地域防災を習い、災害に強いまちづくりを目指す。
- ・地域の魅力を発信する。
- ・地域産の食材の魅力を気付かせ、食品ロス等を考える。

◆事業の流れ

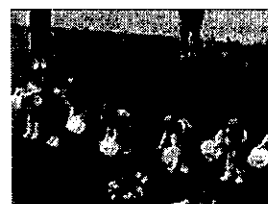
実施日	場所	活動内容	参加人数
5月24日(月)	若栗地域内	学習会、体験会 ・説明 ・実施指導	18名
7月10日(土) 7月24日(土)	若栗公民館 若栗地域内	学習会、体験会 ・勉強会 体験会 ・実施指導	40名
11月7日(日)	若栗地域内	学習会、体験会 ・各箇所での勉強会 ・学習後の自体験	35名
11月27日(土)	若栗公民館	学習会 ・講演会 ・グループワーク ・発表会	32名
12月9日(木) 12月16日(木)	若栗公民館	学習会 ・勉強会	55名

◆事業の様子

☆ ヤマメ稚魚放流

若栗保育所の年長組の園児を対象にヤマメの稚魚の放流を行った。体験を通じて川の大切さや魚の愛しさ、何年かたってサクラマスになってこの川に戻ってきてくれることを学んだ。

園児たちにサクラマスは鱒ずしの原料になること等を教え、地場産の食材の魅力を気付いてもらう目的として行った。



☆ さかな釣り仕掛け作り、釣り大会

ヤマメ釣りを通じて、地域の川に生息する魚を食する事で食材の魅力に気付いてもらい、釣った魚は食品ロスにならないよう考えてもらう学習も行った。

釣り大会に先立ち、釣りに関心持ってもらう為に、仕掛け作りとヤマメに関する勉強会を実施した。



☆ 若栗の町発見！なぞときウオーク

若栗小学校の児童を対象に地区内の旧跡名勝をめぐる町歩きをお行った。時間の関係で6ヶ所しか回れなかったが、各箇所でもクイズを行いそれぞれの場所について学習した。公民館に帰ってから、「もったいない」の紙芝居や万が一の場合を想定しての防災食について学び、実際に作って出来たものを持ち帰って家で食べてもらった。



○ ☆ 防災ワークショップ

風水害時の避難所開設から運営までを研修を通じて確認し、地区における災害対応力の向上を学んだ。

1班8人でゲーム方式で、避難所運営を主体的に考えるツール。避難所のそれぞれが抱える事情が書かれたカードに参加者に配り、避難所施設に見立てた平面図にどれだけ適切に避難者を配置できるか、また避難所で起こるいろいろなトラブルなどにどう対応していくかを模擬体験した。



☆ 食育教室

若栗小学校5年生、6年生と2回に分けて食物の生育等を学び、食材の魅力気付かせ、残したりしたらもったいない等調理実習を通じて食品ロス等を学んだ。



○ ◆事業の成果と課題

- ・コロナの影響でやむなく当初計画していた時期の変更や開催予定の中止等あったが、年間通じて活動が出来た。子供たち中心の活動が多かったがよい経験が出来たと思う。
- ・地域防災に関しては、避難訓練等と違い風水害時の避難所開設から運営までを研修出来たことは防災への意識の向上が高まった。学習の成果を参加されなかった地域の人に聞いてもらい、今後もいろいろな研修を行い地域防災の意識を高めたい。

【地域振興型】

南砺市東太美地域づくり協議会

◆地域の概要

東太美地区は、南砺市の西側の丘陵地に位置し市指定の文化財「監的壕」からは砺波平野が一望でき、干柿づくりやイチゴ栽培、ワインづくりが盛んです。

この豊かな地に於いては災害が少なく、住民の防災意識が低い事から防災に関心を持ち向上することが望まれます。

◆地域課題

- ・ 防災に対する意識の向上
- ・ 非常時の安否確認を徹底する
- ・ 緊急時の連絡網を充実する

◆事業の流れ

実施日	場所	活動内容	参加人数
6月 25日(金)	東太美交流センター	地域づくり部会小委員会 (自主防災訓練の実施について)	26名
7月 15日(木)	東太美交流センター	AEDの使い方講習会	27名
7月 21日(水)	東太美交流センター	自主防災講演会	29名
8月 8日(日)	富山県広域消防 防災センター	「四季防災館」 視察研修	16名
8月 26日(木)	東太美交流センター	・ AED 体操と防災グッズの作り方 県の警戒レベルが「ステージ3」に引き 上げられたことにより中止	中止
8月 28日(土)	東太美交流センター	・ 防災保管庫の確認 ・ 防災行政無線子局放送訓練 県の警戒レベルが「ステージ3」に引き 上げられたことにより中止	中止
8月 29日(日)	東太美交流センター	・ 自主防災訓練(安否確認) 県の警戒レベルが「ステージ3」に引き 上げられたことにより中止	中止

◆事業の様子

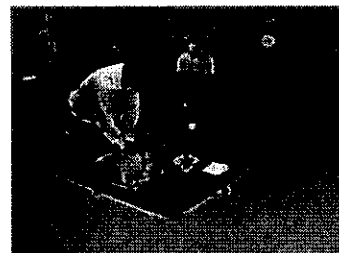
☆ 6月25日（金）地域づくり部会小委員会

地区の防災意識を高めるため各自治会長に8月29日（日）の自主防災訓練の実施に向けての「自主防災訓練の内容・各自治会の緊急連絡網の作成・世帯台帳の作成」について協議しました。



☆ 7月15日（木）AEDの使い方講習会

生涯学習子育て部会で災害、緊急時におけるAEDの操作を参加者全員で実践体験しました。



☆ 7月21日（水）自主防災についての講演会開催

防災士 小永井 勝 氏による「自主防災会と防災訓練の必要性」について学び、意識を高めました。



☆ 8月8日（日）「四季防災館」視察研修

各自治会長を対象に防災意識を高めるため、富山県広域消防防災センター「四季防災館」で津波や土砂災害・地震・初期消火・煙・流水・防風を体験し、災害を身近に感じることができました。

☆ 8月26日（木）AED体操と防災グッズの作り方 中止

AEDの使い方をスムーズに行う体操と新聞紙を使って防災スリッパをつくる予定になっていましたが、新型コロナウイルス感染拡大に伴い中止になりました。

☆ 8月29日（日）自主防災訓練（安否確認訓練） 中止

8月28日（土）防災会役員は午後5時に集合し防災保管庫の確認その後、午後5時30分に防災行政無線子局放送を使って8月29日（日）に実施する安否確認訓練の案内を放送、当日午前6時30分に災害対策本部設置、午前7時に災害発生を想定して訓練を開始、各世帯から1名各公民館に集合し自治会の係員が「安否確認訓練報告書」に参加者氏名・世帯の人数・安否確認防災行政無線子局放送についてのアンケートを聞き取り、各自治会長は世帯の安否確認が終了後、交流センター災害対策本部に報告書等を提出、確認が終了して訓練終了としていましたが、新型コロナウイルス感染拡大の為、中止となりました。

◆事業の成果と課題

近年、気候変動により様々な災害が発生している状況ですが、今まで災害がほとんどない東太美地区では災害意識が低く防災に対する必要性を高めるために訓練の実施を計画しました。

8月29日（日）の自主防災訓練（安否確認）に向けて部会を開催して各自治会の緊急連絡網と世帯台帳の作成を依頼しました。

また、AEDの使い方について指導を受け、講演会では防災訓練の必要性を学びました。四季防災館では、実際に地震体験等約2時間体験し災害を身近に感じることができました。

残念ながら新型コロナウイルス感染拡大の為、訓練中止となりましたが、連絡網の作成と安否確認のための世帯台帳の作成を活かし、今後の自主防災会活動の持続と防災意識向上に努めたいと思います。

【地域振興型】

南山田地域づくり協議会

◆地域の概要

南砺市の中でも6番目の人口があり、子供達も多いのですが、スポーツクラブや塾など、子供自身日々忙しく、地域住民と接触する機会が少ないので、機会を設けて積極的に地域住民と接する機会を設けたいと思っています。

◆地域課題

少子高齢化による子供の減少により、子供と地域との交流が希薄になっている。地域の子供達に幼少時より色々な事業に参加してもらい、地域への愛着を深めるとともに相互理解を図る。

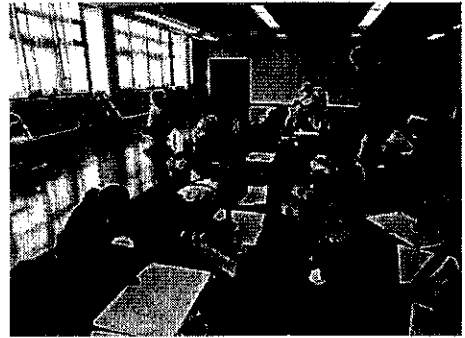
◆事業の流れ

実施日	場所	活動内容	参加人数
7月28日(水)	南山田交流センター	講師指導の下で、写生会	子供16名 保護者12名 計28名
7月31日(土)	クアガーデンホテル	支配人よりマナーを学ぶ	子供10名 保護者・スタッフ11名 計21名
10月23日(土)	千華園(南山田是安)	好きな花を選び指導の下 それぞれ思いの鉢を作成	子供7名 保護者・スタッフ12名 計19名
12月25日(土)	千華園(南山田是安)	指導者の元、自分の門松を 作成	子供7名 保護者・スタッフ13名 計20名

◆事業の様子

☆ 7/28 写生大会

地場産の野菜や果物・お花などを並べて、それぞれ好みの写生を、先生に聞きながらキャンパスに書き、色付けをし、修正しながら、完成させました。夏休みの宿題のお手伝いにもなり喜ばれました。



☆ 7/31 マナー教室

毎年、夏休み子供教室事業。これから大人になる子供達に色々な機会が発揮できるよう手助けしたく計画しました。毎年、好評です。



☆ 10/23 ガーデニング教室

好きな花を選び、講師に指導を受けながら、思い思いの鉢を作成しました。



☆ 12/25 門松作り

楽しく年越しが出来るよう門松作り教室開催しました。



◆事業の成果と課題

今年はコロナの影響もあり、人数が限られたり、中止したりした事業もありました。そのような中でいくつか実行できたことは大変うれしく思います。参加していただきました親子地区民の方々に感謝と共に、来年こそ！満足いただける事業になるよう頑張りたいです。

【地域振興型】

上市町立宮川公民館

◆地域の概要

本地域は、上市町の平野部に位置し、滑川市と富山市に接しています。

弥生時代後期の「むら」の姿が発見された「江上A遺跡」が存在し、地元出身の音楽教育家の福井直秋氏が作曲した旧宮川小学校校歌には『千町田（ちまちだ）』の歌詞があり、古くから田園地帯として栄えてきたことが分かります。

また、当公民館の周辺には、江戸時代から現代にかけての著名人の生家があり、才能豊かな人々を生み出した地域でもあります。

昨年12月に北陸自動車道上市スマートインターチェンジが開通し、北部では圃場整備が予定されるなど、次世代に向けた取り組みも活発に行われています。

◆地域課題

- ・勇壮な劔岳、広がる千町田に代表される名画のような風景を見慣れてしまっている地域の人々に、改めて宮川地区が持っている魅力をお伝えする必要があります。
- ・圃場整備が予定されていることから、近い将来、農業のやり方が見直されることが予測されます。そのため、効率的な農業（スマート農業等）に関心を持っておくことも必要です。
- ・安政飛越地震で被害を受けたとの記録が残っていることから、古文書の研究で明らかになった地震被害の実態を認識し、防災への意識を高める必要があります。

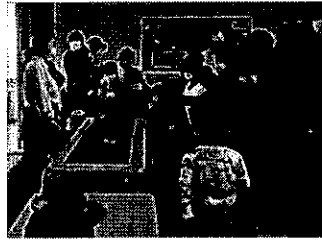
◆事業の流れ

実施日	場所	活動内容	参加人数
5月9日(日)	宮川公民館	・富山県内の歴史、弥生後期の「むら」江上A遺跡出土の土器や木製品の解説	30名
5月13日(木)	宮川公民館 周辺道路	・上市スマートインターチェンジ、著名人生家見学と解説	11名
5月16日(日)	宮川公民館	・宮川地区出身のバイオリニスト、ハーピストの演奏 ・音楽教育の創始者福井直秋氏の事績	80名
6月6日(日)	四季防災館	・高齢者防災講座受講	20名
6月19日(土)	宮川公民館	・宮川地区に伝わる民話「橋地蔵」	32名
6月23日(水)	陽南地区玉葱畑	・スマート農業での玉葱の収穫見学	3名
10月17日(日)	四季防災館	・女性のための防災講座受講	19名
10月19日(火)	宮川公民館	・避難所設営体験（避難所で使用するしきり、ベッド、トイレの組み立て体験）	34名
10月20日(水)	宮川公民館	・炊き出しについて意見交換と実地体験	12名

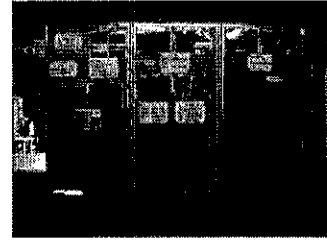
◆事業の様子

☆ 宮川地区の魅力を学ぶ

「江上A遺跡」から発掘された遺物に触れ、年表上でその時代を把握することにより、切れ目なく続いている人々の生活を認識しながら宮川地区の歴史を学びました。



(土器に触れる児童)



(スマートインター写真展)

上市スマートインターチェンジ及び著名人の業績についての解説を聞き、実際に著名人の生家を見学することで、現代と過去が交錯し、未来への発展を期する気持ちが持てたように思います。

また、公民館の裏庭から見える劔岳氷河は本地域だけではなく、上市町の魅力の一つとなるでしょう。

(右は 宮川公民館から見える劔岳、池ノ谷に氷河認定)



☆ スマート農業見学会

上市町の陽南地区で、スマート農業が行われており、玉葱の収穫風景を見学しました。事前に掘り起こした玉葱を機械が収集し、箱に入れるという工程でしたが、労力の省力化等これからの農業の発展に期待が持てました。



(スマート農業作業車)



(玉葱の収穫)

☆ 避難所設営体験会

四季防災館で、高齢者防災講座と女性のための防災講座を受講しました。

防災士から過去の災害救助の体験談を聞くことで、防災への意識の高まりが感じられました。

また、避難所設営体験では、段ボール製のしきり、ベッド、トイレの組み立て体験を行いました。

今後、地域の方々も体験できるように、今回の参加者には、コーディネーター役となってもらうことになりました。



(防災講座)



(避難所設営体験会)



(炊き出し)

◆事業の成果と課題

コロナ禍における開催のため、感染症対策を実施しながら、少人数で開催でき、今後役に立つ事業を実施しました。

地域の歴史を学び、著名人の解説、音楽鑑賞等を通して、多くの地域の人々に地元の魅力を知ってもらうことができました。

また、防災講座、避難所設営体験を通して参加者の防災に対する意識は高まったと思いますが、今後、コーディネーターが中心となり、どれだけ地域の防災意識を高めることができるかが課題だと考えます。

體驗交流型

【体験交流型】

富山市立奥田北公民館

3世代交流	各種団体との連携	文化継承活動	自然体験活動	ふるさとの学び
○	○		○	

◆事業の目的

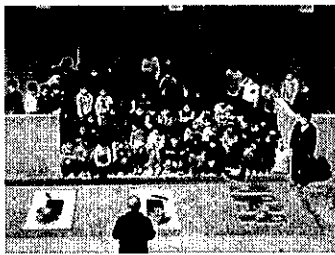
高齢者と小学校児童との世代間交流として、奥田北校下社会福祉協議会メンバーである高齢者のサポートのもと、児童がもち米の種まきから稲刈りまでの稲作作業を体験し、その体験を通じ植物や自然に触れることで子ども達の主体性や自主性を引き出すとともに、食用植物であるもち米を収穫することで自然摂理の理解につなげていくとともに児童達の情操を養うもの。

◆事業の流れ

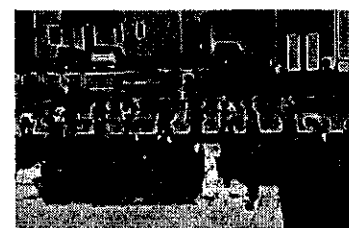
実施日	活動名	場所	参加人数
4月8日(木)	種まき	奥田北小学校	74名
5月18日(火)	田植え	奥田北っ子にこここ農園	111名
9月21日(火)	稲刈り	奥田北っ子にこここ農園	116名
9月28日(火)	脱穀	奥田北っ子にこここ農園	105名

◆事業の様子

☆ 種蒔き



☆ 田植え



☆ 稲刈り



☆ 脱穀



◆事業の成果と課題

コロナ禍での取り組みではあったが、一定のレベルで事業の目的は果たせたと思う。しかしながらお世話をした地域の方々と児童が採れたもち米で「餅つき」をして収穫の喜びを一緒になって味わう交流会を11月25日(木)に開催する計画だったが、コロナ禍の中で会食は避けなければならないため残念だが中止となった。この交流会が実現していれば、より一層稲作体験自体の達成感や地域の方々との繋がり感等の醸成を図ることができたと思われる。

【体験交流型】

高岡市立牧野公民館

3世代交流	各種団体との連携	文化継承活動	自然体験活動	ふるさとの学び
	○			

◆事業の目的

高岡市内でも外国籍の居住者が多い牧野地区において、多文化への理解と交流を深めるため、区内に居住する外国籍（シリア国籍）の講師を招き、シリアのスーツ作りを体験するとともに、外国籍の方々との交流を通して相互理解を深める。

◆事業の流れ

実施日	活動名	場所	参加人数
6月1日(火)	事業の打合(日程、内容等)	牧野公民館	2名
7月11日(日)	事業の打合(役割分担等)	牧野公民館	5名
9月4日(日)	事業の打合(事業中止の検討)	牧野公民館	5名

◆事業の様子

☆

6月1日 牧野校下多文化共生協議会代表とシリアのスーツ作りについて協議、協議会にシリア人講師サリム氏への協力を要請した。

また、事業実施に当たっては、牧野校下食生活改善協議会にも協力要請を行うほか、その他の団体についても随時協力をお願いすることとした。

☆

7月11日 多文化共生協議会、食改、シリア人講師サリム氏及び公民館で事業の役割分担について協議。講師からは材料が一般に市販されていないため、ネットで注文する旨の申し出があり、後日県に問い合わせた上で了解を得た。

また、参加者の募集については、8月に募集チラシを各自治会で班回覧してもらったほか、児童クラブへの要請も行うこととした。

☆

9月4日 新型コロナウイルスが蔓延している状況で、事業の開催が困難であるとの認識から、事業開催を中止することを決定。なお、状況が許せば次年度以降に公民館単独事業としての開催について今後検討することとした。

◆事業の成果と課題

新型コロナウイルスの影響で事業を中止せざるを得ない状況となったが、地域内の組織や外国籍の協力者との協議を通じて、多文化への理解を深める重要性がスタッフのなかで醸成されたものと考えられる。また、せっかく企画した事業なので、次年度以降単独でも取り組もうとするスタッフの姿勢に、地域における公民館活動の重要性を再確認したところである。

【体験交流型】

高岡市立古府公民館

3世代交流	各種団体との連携	文化継承活動	自然体験活動	ふるさとの学び
○	○	○		

◆事業の目的

高度情報社会に適応できるように、地域ぐるみで情報教育を支援し青少年の健全育成をはかる。

◆事業の流れ

実施日	活動名	場所	参加人数
11月13日(土)	ちびっ子クラブ	高岡市立古府公民館	4名
11月27日(土)	文明祭	高岡市立古府小学校	15名
12月11日(土)	冬の子供会	高岡市立古府公民館	30名

◆事業の様子

☆ 寄せ植え(ちびっ子クラブ)

シクラメン、アリッサム、ピオラ、パンジーの4種類の花をバランス良く配置し、鉢からこぼれないように気を付けて土を入れていました。また、先生から雪が降るときは軒下など雪のかからないところに置くことを教えていただきました。最後は、花鉢と一緒に記念撮影をし、嬉しそうでした。



☆ プログラミング教室(文明祭)

講師の先生方には、大学の先生1名、大学生4名をお招きし、参加者10名で行いました。児童は、パソコンを操作しながらプログラミング学習に挑戦しました。講師の先生方には、どんな質問にも丁寧に、分かりやすく答えていただいたので、より一層、興味・関心をもつことができました。



☆ しめ縄飾り作り(冬の子供会)

講師の先生から、作る手順や作り方、そして、しめ縄飾りの意味などを説明していただきました。また、神様を家にお迎えするために玄関に飾る意味や飾るのを避けたほうがよい日も教えてもらいました。子供たちは家族で協力しながら楽しそうに作業していました。



◆事業の成果と課題

文明祭で行ったプログラミング教室では、5名の講師の先生方に対して、参加児童10名となりました。児童にとっては、かなり行き届いた指導を受けることができ、有意義な時間を過ごせたのではないかと考えています。一方でコロナ禍では、例年に比べると、どの行事でも児童の参加が少なくなっているという現状があります。

【体験交流型】

高岡市立福岡公民館

3世代交流	各種団体との連携	文化継承活動	自然体験活動	ふるさとの学び
○	○	○	○	○

◆事業の目的

子供たちが地域の皆さんとの交流を図りながら、地域の伝統的文化や工芸等を学んだり、自然にふれる体験をしたりすることで、ふるさとの良さを再発見する機会とする。

◆事業の流れ

実施日	活動名	場所	参加人数
6月29日(火) 7月3日(土)	七夕に願いをこめて	福岡公民館	75名
10月16日(土)	つくりもんをつくろう	福岡公民館	24名
11月20日(土)	スゲでつくろう①干支置物	福岡公民館	40名
12月23日(木) 12月26日(土)	スゲでつくろう②しめ飾り	福岡公民館	46名
2月13日(日)	冬を楽しむ!自然観察会	小矢部川河川敷	41名

◆事業の様子

☆ 七夕に願いをこめて

恒例行事となっている七夕まつり。三密を避けるため、短冊は各ご家庭で書いてもらった。例年以上にたくさん集まった色とりどりの短冊にコロナの収束の願いも込め、七夕飾りを設置した。

☆ つくりもんをつくろう

300有余年の伝統をもつ『福岡町つくりもんまつり』。子供たちにつくりもんを伝承していきたいと体験教室を開催した。つくりもん名人から助言をもらい子供たちの自由な発想を生かしたつくりもんが仕上がった。今年度もまつりは中止だったが、代替イベントとしてSNS上で開催された『Myつくりもんコンテスト』には、当館のInstagramアカウントから子供たちの作品写真を代理投稿する形で参加した。



☆ スゲでつくろう①干支置物

400年の伝統の技が今も伝わる越中福岡の菅笠技術。地元のボランティアグループ菅っ子メイトを講師にお招きし、干支置物作りを体験した。「毎年、公民館に作りに来て、十二支そろえたい。」という声も聞かれた。



☆ スゲでつくろう②しめ飾り

感染症対策のため、開催日を2回に分けた。菅笠には使えないような細いスゲを使ってしめ縄を緋い、地域ならではの正月飾りを作った。

☆ 冬を楽しむ!自然観察会

福岡町地域を流れる小矢部川に親しみをもち、川環境を大切にする心を育もうと平成25年度から開催している事業。今年度は小矢部川にサケの稚魚20,000匹を放流した。また野鳥や生き物の足跡、植物の葉痕を観察した。



◆事業の成果と課題

子供たちにとっては、公民館での多世代交流やふるさと学習は貴重な機会となっている。今後も各団体の皆さんと協力し合い、各世代にふるさとの良さを伝える事業を開催していきたいと考える。

【体験交流型】

射水市戸破コミュニティセンター

3世代交流	各種団体との連携	文化継承活動	自然体験活動	ふるさとの学び
	○		○	

◆事業の目的

子供たちに季節ごとの催し物や行事を通して大人たちと関わりあい、コミュニティセンターではこんないろいろな行事が行われているという関心を持って親子、三世代で参加してもらえよう工夫する。

◆事業の流れ

実施日	活動名	場所	参加人数
5月19日(水)	さつまいも苗植え・花植え	戸破中央児童遊園地	43名
10月14日(木)	芋ほり	戸破中央児童遊園地	35名
12月12日(日)	ひばりクリスマスの集い	戸破コミュニティセンター	145名
12月19日(日)	正月用寄せ植え教室	戸破コミュニティセンター	39名

◆事業の様子

☆ さつまいも苗植え・花植え

天候にも恵まれ、参加した年長さんは植え方の説明を熱心に聞き園外保育に来た他の園児に声援をもらいながらさつまいも、5種類の花を植えました。さつまいもが大きくなるまでの成長過程も散歩で様子を見に来るのが楽しみだそうです。



☆ 芋ほり

紅はるかのさつまいも収穫をしました。芋の形や大きさに一喜一憂しながら自然に触れ合う素晴らしい体験ができました。射水ケーブルテレビ、KNBも来ていましたが子供たちは動じることもなくカメラに元気いっぱいの笑顔でした。



☆ ひばりクリスマスの集い

感染予防対策のため午前、午後に分け、歌・バルーン・演劇パフォーマンス・コメディマジックを観劇して、一緒に歌ったり、踊ったり、ビックリしたり楽しい時間を友達同士や親子で楽しみました。最後にサンタさんからプレゼントもあり喜んで帰っていきました。



☆ 正月用寄せ植え教室

毎年人気の寄せ植え教室、苗の配置を決め、バランスを考えて指導を受けながら植えこみました。華やかなお正月の寄せ植えができました。



◆事業の成果と課題

さつまいもは土の中にできること、一つ一つつながっていること等、実際に自分の目で見て触れて体験することでほかの野菜へと興味が広がり、併せてクリスマスの集いや寄せ植え教室を機会に遊びの意義や協調性、向上心、ねらいを深めていく。今後は世代をこえて行い、戸破地区の向上を図ってきたい。

【体験交流型】

魚津市村木公民館

3世代交流	各種団体との連携	文化継承活動	自然体験活動	ふるさとの学び
○	○		○	

◆事業の目的

小学校が統合したことにより空いた小学校グラウンド隣の土地を利用して畑活動を始める。普段できない“土に触れる”を体験する。

◆事業の流れ

実施日	活動名	場所	参加人数
5月8日(土)	畑の土作り	村木公民館敷地内畑	36名
5月15日(土)	苗の植付け	村木公民館敷地内畑	32名
9月25日(土)	さつまいも掘り	村木公民館敷地内畑	32名
10月9日(土)	焼き芋作り	村木公民館グラウンド	38名

◆事業の様子

☆ 畑の土作り

畝の中央を掘り肥料を入れ、埋戻す。鍬やシャベルを上手に使い畝を作った。出来上がった畝に黒いマルチをした。

☆ 苗の植付け

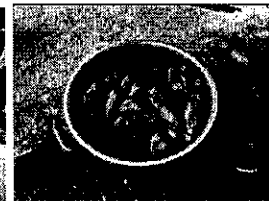
マルチに穴を開けてさつまいもの苗を斜めに植える。植える方向に気を付けた。たっぷり水をかける。

☆ さつまいも掘り

ツルや草を取り除き、芋を掘り出した。大きいサイズの芋を発見し歓声上がる。楽しそう。

☆ 焼き芋作り

収穫したさつまいもを焼き芋にさせていただく。鍋に石を敷き、芋を並べ火にかける。どのように木をくべたらいいか大人と相談し工夫していた。石の上に芋を置くことで焦げることもなくホクホクの焼き芋ができた。



◆事業の成果と課題

- ・親子で畑作業（勤労体験）をすることで普段できない、「土に触る」「作物の育ち方を知る」ことができた。また地域の方々との交流を持つことができた。
- ・子供たちには、途中の草取りや育っていく様子を観察する機会があったほうが良い。
- ・地域には農業をしている方がいないので手探りの状態で事業をしている。畑活動を始めて4年になるがまだうまくいったとは言えない。他の地区との連携で指導を受けることを検討したい。

【体験交流型】

氷見市立女良公民館

3世代交流	各種団体との連携	文化継承活動	自然体験活動	ふるさとの学び
	○	○	○	○

◆事業の目的

豊かな自然を生かした地域の宝に触れる体験をすることにより、地元の高校生や小学生が地域のよさを再発見すると共に、地域に愛着をもったり守っていきこうと取り組んだりする機会とする。

◆事業の流れ

実施日	活動名	場所	参加人数
7月22日(木)	虻が島自然学習 ①	地域内	51名
10月14日(木)	虻が島自然学習 ②		
12月19日(日)	ミニ門松づくり	地域内	20名
11月28日(日)	女良ワカメの養殖体験	地域内	150名
3月5日(土)			

◆事業の様子

☆ 虻が島自然学習

7月は虻が島に興味のある地元の小学生が自生する植物や生き物を地元の自然観察指導員やウミウシの生育調査を長年続けておられる高岡生物研究会会長の泉治夫先生から、実物を通して生態を学んでいた。子供たちは生き物に興味をもち、守りたいという思いで、虻が島のゴミ拾いなどにも積極的に取り組んでいた。10月には4年生が「地域学習」として虻が島の生き物や歴史・伝説などを学ぶために虻が島を訪れ、夏とは違う植物などの変化を感じ取っていた。



☆ ミニ門松づくり

今年もコロナ感染拡大を防ぐため、竹は事前に切って準備し、飾りつけのみの活動を行った。毎年、自生する竹、松、南天などの飾りに使うものの由来などを説明することで、門松を飾る意味を確認しながら作っていた。



☆ 女良ワカメ養殖体験

コロナ禍のため、外でワカメの種付けや刈り取りのみを行い、ワカメ料理の試食会は行わなかった。昨年に引き続き、地元の海洋科学科の高校生が参加し、活動を担う役割を引き受けてくれた。小学生の種付け作業のサポートやワカメの刈り取りや片付けなどを進んで行ってくれ、活気ある取り組みとなった。

また、小学生は種付けのとき、一人一人名前を書いたタグを付けたことで、自分のワカメという関わりをもつことができたのでワカメの成長をより深く実感することができた。



◆事業の成果と課題

コロナ禍、感染拡大を防ぐために外での活動のみ実施した。高校生が参加し、灰付けワカメの作業にも挑戦してくれるので、次世代につながる取り組みになる可能性が見えてきた。

地域の特産品を地域の活性化につなげるための公民館としての橋渡しの在り方を探っていきたい。

【体験交流型】

滑川市滑川東地区公民館

3世代交流	各種団体との連携	文化継承活動	自然体験活動	ふるさとの学び
○	○	○	○	○

◆事業の目的

ふるさと教育を中核とした事業を開催することによって、住民間・世代間の交流、ふるさとへの関心や愛着心向上、伝統行事を次代へ繋ぐ地域づくり・学びづくりの推進を図る。

◆事業の流れ

実施日	活動名	場所	参加人数
7月10日(土)	ネプタ(大松明)製作	寺家小学校	116名
7月31日(土)	ネプタ流し・「みんなできれいにせんまいけ」海岸清掃活動	和田の浜	28名
7月31日(土)	茅の輪くぐり	櫛原神社、櫛原神社禊場	約400名
10月10日(日)	海洋深層水を学ぶ 「アクアポケット・キラリン号乗船体験」	アクアポケット・富山湾(上市川コース)	24名
11月7日(日)	ふるさとウォーキング	地区内～滑川西地区	15名
3月6日(日)中止	料理教室	市民交流プラザ3階調理室	—

◆事業の様子

☆ ネプタ(大松明)製作会

地元のボランティアスタッフに協力を仰ぎ、寺家小学校、同育友会と連携してネプタ製作を行った。

☆ ネプタ流し・「みんなできれいにせんまいけ」海岸清掃活動

寺家小学校の6年生親子とともにネプタ流しに参加し、その様子を学遊ネット(動画)紹介した。また、海の保全を考える機会とし清掃活動を実施した。

☆ 茅の輪くぐり

毎月地区内全世帯に配布している公民館ニュースで告知したところ多くの参加者が訪れた。

☆ 海洋深層水を学ぶ「アクアポケット・キラリン号乗船体験」

海洋深層水分水施設アクアポケットにて説明を聞き、その後キラリン号に乗船した。船上では富山湾の資源について学んだ。

☆ ふるさとウォーキング

滑川西地区公民館と連携し、雪嶋神社まで往復した。雪嶋神社では滑川西地区伝統芸能「獅子舞」について学んだ。また、ウェブアンケートを実施した。

☆ 料理教室「体にやさしいスイーツづくり」

地元の食材を使った料理教室を開催予定だったが、感染症拡大のため中止。参加希望者らに写真付きのレシピを配布し、後日広報紙や学遊ネットなどで公開する。



清掃ボランティア活動証明書 発行済

滑川市東地区公民館
 滑川市東地区公民館は、地域の発展と住民の生活の向上に貢献するために、ボランティア活動の推進を図っています。
 活動日時：2021年11月13日(土) 13:00～15:00
 場所：滑川市東地区公民館
 対象：18歳以上の方(定員20名)※16歳以上の中学生は別途要
 参加費：無料(お弁当は別途要)※16歳以上の中学生は別途要
 申込先：市民交流プラザ3階調理室
 申込先：市民交流プラザ3階調理室



◆事業の成果と課題

伝統行事はふるさとの文化や歴史を身近に感じられる良い機会となっており、年々参加者や見学者が増加しているが、地域住民らの高齢化が進んでおり、後継者不足の問題が表面化してきている。

【体験交流型】

滑川市山加積地区公民館

3世代交流	各種団体との連携	文化継承活動	自然体験活動	ふるさとの学び
○	○	○		

◆事業の目的

ふるさとの伝統行事を次世代まで受け継いでもらいたい。事業を通じて地域の住民の交流を図るとともに地区を元気にしたい。恵まれた自然に感謝をし、大切に守りながら活用していきたい。

◆事業の流れ

実施日	活動名	場所	参加人数
8月8日(日)	おしょうらい準備	公民館及び地区内	20名
8月13日(金)	おしょうらい	公民館及び地区内	60名
1月4日(火)	書き初め大会	公民館	13名
1月10日(月)	左義長	公民館及び地区内	60名

◆事業の様子

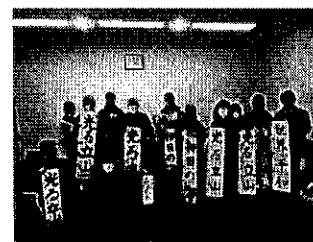
☆ おしょうらいのための櫓づくり

公民館役員全員で地元の山から竹を切りだし、おしょうらいで燃やす櫓(やぐら)を製作しました。安全には十分配慮しながら、子供たちは櫓が作られる過程を間近で見学していました。



☆ おしょうらい

例年なら夜店や盆踊り、ピンゴ大会などで楽しい時間を過ごすのですが、今年は災害級の豪雨の影響により、中止せざるをえませんでした。新型コロナウイルス感染拡大防止対策のため、焼きそばとフランクフルトのテイクアウトのみ行いました。



☆ 書き初め大会

毎年、地区在住の書道の先生にお願いして子供たちに指導をしていますが、今年は大人も一緒に書き初めに参加しました。大人たちは、数十年ぶりに筆を持ったとのことで、とても楽しそうでした。



☆ 左義長

今年は、好天に恵まれ、早朝から櫓を作りました。前週に開催した、書き初め大会で使用した半紙なども一緒に焼きました。毎年恒例のぜんざいやみかんのふるまいも実施し、大変好評でした。



◆事業の成果と課題

例年、子供だけが参加している書き初め大会に、今年は大人も参加してもらったところ、想定以上の盛り上がりがありました。おしょうらいや左義長は、地区の伝統行事のため、地区住民だけでなく、帰省して来る方々も楽しみにしています。おしょうらいは、新型コロナウイルス感染拡大防止対策を実施しながら、規模を縮小して開催する予定でしたが、豪雨のため中止になりました。代わりに送り火を、後日に実施したら良かったと思いました。左義長は、好天に恵まれてたくさんの方々に参加していただきました。今後は、新型コロナウイルス感染症に気をつけながら、いかに伝統行事を続けていくかが課題になると思います。

【体験交流型】

黒部市生涯学習文化スクエア

3世代交流	各種団体との連携	文化継承活動	自然体験活動	ふるさとの学び
	○		○	○

◆事業の目的

- ・子供たちが地域の良さを再確認し、ふるさとを大切にする気持ちを育む。
- ・子供たちが自然に親しむことで、豊かな情操を培う。
- ・コロナ禍で子供たちの活動が制限される中、ひとつでも多くの楽しみをもち、体感することによって心や体の健康を保つ。

◆事業の流れ

実施日	活動名	場所	参加人数
7月22日(木)	自然の恵みを感じる藍染め教室	生涯学習文化スクエア	25名
8月1日(日)	わくわくどきどき！親子で楽しく遊ぼう	生涯学習文化スクエア	20名
11月3日(水)	とちの実料理教室	生涯学習文化スクエア	21名
11月23日(火)	土人形絵付け体験教室	生涯学習文化スクエア	27名
12月12日(日)	フラワーアレンジメント教室	生涯学習文化スクエア	34名

◆事業の様子

☆ 自然の恵みを感じる藍染め教室

タデアイの葉を使い、綿素材のミニバッグに葉を置き、木づちでたたいて染める「たたき染め」とシルクのハンカチにタデアイで作った液につける「生葉染め」を体験した。

☆ わくわくどきどき！親子で楽しく遊ぼう

コロナ禍での運動不足解消と親子の触れ合いを目的として、ボールやマットを使い親子で軽運動を行った。また、特別体験として、アユのつかみ取りも行った。

☆ とちの実料理教室

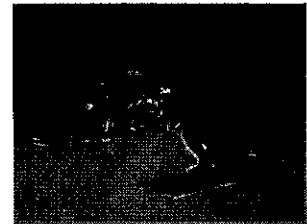
内山地区に伝わるとちの実の調理法（アユ抜き方法やとちがゆの作り方）を学び、とちの実入りのかいもちを作った。

☆ 土人形絵付け体験教室

素焼きの干支の土人形に色をつける体験をした。体験を通して絵付けの技法や富山の土人形の歴史を知ることができた。

☆ フラワーアレンジメント教室

クリスマスツリーをイメージしたアレンジメントを作った。草花の香りを感じながら花の名前を知り、アレンジメントの基本を学んだ。



◆事業の成果と課題

コロナ禍を考慮し、各教室の定員を少なくした分、回数を増やし、できるだけ多くの方に参加していただけるように努めた。また、自然やふるさとについて「楽しく学ぶ」ことができる内容を取り入れた。「親子で一緒に体験できてうれしかった。」「とちの実料理教室では調理方法だけでなく、地域の自然の大切さを知ることができた。」との声が聞かれた。今後、感染状況が落ち着けば、さまざまな世代が交流できる教室を開催したい。

【体験交流型】

黒部市立浦山公民館

3世代交流	各団体との連携	文化継承活動	自然体験活動	ふるさとの学び
○	○	○	○	○

◆事業の目的

- ・自然豊かな恵まれた環境に感謝し、自然に触れ合うことを通して自然の大切さを学ぶ。
- ・地域の伝承文化を体験し、三世代交流を深める。
- ・災害に対し意識を深め、自分が何をできるかを改めて考えてもらう。

◆事業の流れ

実施日	活動名	場所	参加人数
6月18日(金)	ホタルの鑑賞会	黒部市栃屋地内	41名
7月2日(金)	盆踊り練習会①	黒部市うらやま保育園	14名
8月4日(水)	盆踊り練習会②	宇奈月小学校	54名
9月23日(木)	コットンボール作り教室	浦山交流センター	8名
9月27日(月)	防災教室	宇奈月小学校	33名

◆事業の様子

☆ ホタルの観賞会

鑑賞会の日には天気、温度、湿度と環境が整った日となりました。事前にホタルがいる場所を講師の方が確認しておられたお陰で、新しい場所でたくさんのホタルを見ることができました。豊かな自然を認識する良い機会となりました。

☆ 盆踊り練習会①②

今年度も地域の盆踊りは中止になりましたが、地域の伝承文化を引き続き伝承していきたく練集会を実施しました。毎年の練習会の成果が出てきており小学生は少しずつ踊りが踊れるようになりました。

☆ コットンボール作り教室

地域の方に綿花から糸を紡いで頂いた糸を使ってコットンボールを作りました。水風船に糸を巻き付ける作業は低学年には少し難しかったようですが、少しずつ慣れてきて楽しく作ることができました。綿花から糸が出来る事もとても興味を持ってもらえたようでした。

☆ 防災教室

自分の住んでいる地域の地形を知りどんな災害が起きる可能性があるか説明を聞き、また非常持ち出し袋の中身を確認してもらいました。すぐろくをしながら避難所でのマナーも学びました。



◆事業の成果と課題

コロナウィルス感染拡大により計画していた野菜作り教室が実施出来ませんでした。それ以外の事業は感染対策を講じながら実施する事ができました。自分たちの住んでいる地域はどのようなところなのか、体験を通して地域の文化や伝統を学ぶ良い機会となったようです。地域の方の協力を得ながら、子ども達には郷土愛を育てていってほしいと思います。

【体験交流型】

黒部市立下立公民館

3世代交流	各種団体との連携	文化継承活動	自然体験活動	ふるさとの学び
○	○	○	○	○

◆事業の目的

ふるさとの自然に触れ、三世代交流をしながら地域の歴史や文化を学ぶ。古くから伝わる伝統行事の継承を通して地域とのつながりを知り、参加することで絆を深めてほしい。

◆事業の流れ

実施日	活動名	場所	参加人数
5月16日(日)	歴史・自然探検隊	地区内(下立金毘羅山)	21名
11月7日(日)	そば刈り体験	地区内	18名
11月27日(土)	そばの実脱穀体験	地区内	16名
12月26日(日)	そば打ち体験	下立まちおこしセンター	22名
1月15日(土)	おんづろこんづろ(左義長)	下立神社境内	120名

◆事業の様子

☆ 歴史・自然探検隊

故郷の歴史を学びながら下立金毘羅山までの歩行会を行いました。下立マップを片手に、北陸上街道、中世の山街道の歴史を学びながら山頂に向かいました。途中、ナチュラルリストの方に、植物名の語源や鳥のくちばしの形から食べ物を考えたり、鳥のすみかをクイズ形式で教わりました。山頂から見る、黒部川扇状地は、山のふもとに住んでいる子供たちにとって驚きの景色でした。

☆ そば刈り、脱穀体験

そばまき体験の予定でしたが、コロナ禍で急遽変更としました。種は、そばの会の方の協力で行われました。立派に育ったそばを刈り取り、揃えてひもで縛りますが、雑草が多く除いて縛る作業が大変でした。子供たちからは、そばと草と同じ量があるとの声が聞こえてきました。また、脱穀では、脱穀機を借りたのでスムーズに行われました。

☆ そば打ち体験

三世帯交流の場となり、たくさんの方に親子で参加して頂きました。昨年参加した子供たちは、友達に教えたり、親に教えたりする姿も見受けられました。そば太さも、上手にそろえられていました。家に持ち帰って、おいしいそばが食べれたのではないのでしょうか。

☆ おんづろこんづろ(左義長)

江戸時代より伝わる行事です。無病息災・五穀豊穡を願い、子供たちの習字が天高く舞い上がり、字が上手になりますようにと毎年行われます。子供たちが、たいまつで点ける火が燃え上がり圧巻です。

◆事業の成果と課題

コロナ禍の中、事業の変更などもありましたが、協力または、参加して下さった方に感謝です。今だから、地元で集まれたと思いました。つながりが出来、今後の事業に活かせると思います。



【体験交流型】

砺波市立出町公民館

3世代交流	各種団体との連携	文化継承活動	自然体験活動	ふるさとの学び
○	○			

◆事業の目的

- ・親子や祖父母と孫で理科手品を体験し、理科への興味をもってもらうとともに参加者との交流を行う。
- ・世代を超えた人と人とのつながりを強め、支えあうことのできるあたたかい地域づくりをすすめるために、世代交流や地域の学びにつながる事業を行う。

◆事業の流れ

実施日	活動名	場所	参加人数
11月28日(日)	ワクワク理科教室	出町自治振興会 2階会議室	16名

◆事業の様子

☆ ワクワク理科教室

講師オリジナルの理科手品を中心に、家にある材料で再現可能な理科手品を親子（祖父母と孫）で体験した。

仕掛けのない理科の法則をもとにした危険のない手品で、静電気でクルクル回転するストローやお札の上に硬貨を載せるものなど、幼児にも体験できる内容で、理科への興味を深める機会となった。



◆事業の成果と課題

新型コロナウイルス感染拡大予防のため、予定していた2つの事業が中止となった。

開催することのできた理科教室では、幼児でも自宅で再現可能な内容を中心に行い、親子（祖父母と孫）で理科への興味を深めてもらう機会となった。

今後も他団体との連携を行い、魅力的な学びの事業を企画・実施したい。

【体験交流型】

砺波市立青島公民館

3世代交流	各種団体との連携	文化継承活動	自然体験活動	ふるさとの学び
	○	○	○	○

◆事業の目的

地域の子供たちを交え、その保護者、地域の人たちとふるさとの伝統・文化とふれあい、学び、郷土への愛着を育む事業を展開する。

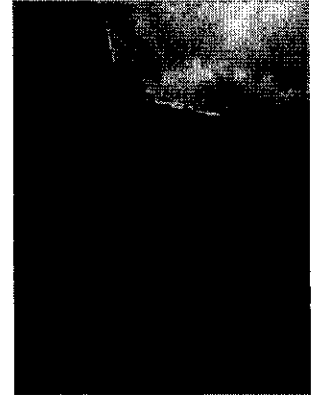
◆事業の流れ

実施日	活動名	場所	参加人数
9月19日(日)	プラネタリウム観察	道の駅庄川	14名
12月19日(日)	ワラガイ作り	庄川生涯学習センター	8名
1月10日(月・祝)	左義長まつり	中学校グラウンド	300名

◆事業の様子

☆ プラネタリウム観察

コロナ禍で夜高行燈学習会、流しそうめんは中止とし、代わりにプラネタリウム観察を実施しました。移動プラネタリウム観察で大きな宇宙、その小さな地球に暮らす自分達と対比し、夢を含ませました。



☆ ワラガイ作り

昨年左義長が大雪のため中止となり、ワラガイの蓄えがあったため、不足分のみ作成しました。例年は「昔ながらの農業体験」の事業の一環として実施していましたが、コロナ禍で時間がとれず、単発での実施といたしました。



☆ 左義長まつり

12月に作ったワラガイを、やぐら飾りとして活用しました。自分たちの作ったワラガイがやぐらの一部をなる様子を見ることで、地域の伝統文化に携わっている自覚を持つことに繋がったと思います。



◆事業の成果と課題

コロナ禍で多くの行事が中止となりましたが、その中で工夫をこらし、伝統行事の継承にこぎつけられたと自負いたします。今後も文化継承、ふるさとの学びの場を拡げていきます。

【体験交流型】

砺波市立梅檀山公民館

3世代交流	各種団体との連携	文化継承活動	自然体験活動	ふるさとの学び
○	○		○	

◆事業の目的

梅檀山は少子高齢化が砺波市で一番進んでいる地区です。事業を実施しても、参加してくれる子供がいません。そこで、今年度は梅檀山体育館を利用している、庄東ミニバス女子（スポーツ少年団）に参加をお願いしました。

◆事業の流れ

実施日	活動名	場所	参加人数
5月29日（日）	サツマイモ苗植え	梅檀山地内（休耕田の畑）	35名
10月3日（日）	サツマイモ掘り	梅檀山地内（休耕田の畑）	50名

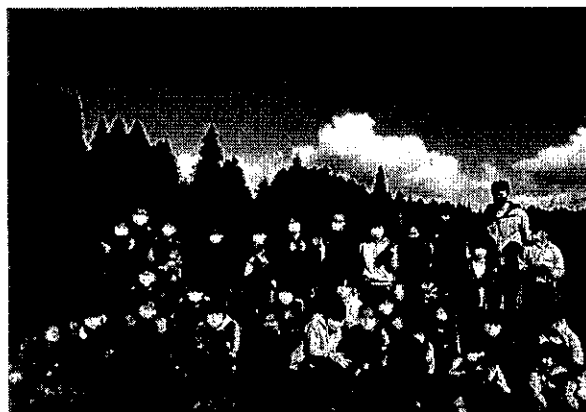
◆事業の様子

☆ サツマイモ植え

庄東ミニバス女子の皆さんとサツマイモを植えました。子供たちは泥を触ることに慣れていなくて、転んだり、足を取られたりして泥だらけになっていましたが、その周りは笑い声でいっぱい、「楽しかった!」と、言ってもらえました。その様子にタッチの会（高齢者グループ）が、目を細めながら喜んでいました。青年団の皆さんは、子供たちが泥だらけになる様子に慌てふためいていました。

☆ サツマイモ掘り

子供たちは不思議そうな様子でした。なぜなら、自分たちの植えた苗が、いつの間にかサツマイモになっていたからです。たくさんのサツマイモを自分たちの手で掘り取り、歓声をあげていました。青年団は子供たちが掘り起こしやすいように、鍬で泥を柔らかくしました。タッチの会は、子供たちの掘り起こしたサツマイモの泥を落としていました。血のつながりこそありませんが、大きな一つの家族のような、温かい三世交代の時間でした。



◆事業の成果と課題

何よりも、庄東ミニバス女子の皆さんの笑顔がたくさん見られたことが、今年の成果です。そして、保護者の皆さんに「来年もお願いします。」と、言ってもらえたことです。今後も継続して参加してもらおうことで、梅檀山の「関係人口」をどんどん増やしていきたいと思います。また、普段は試合に勝つことを目標に真剣に練習をしておられますが、このような活動に参加することで、息抜きや親睦を深めることにつながればと思います。休耕田の活用という意味でも継続していきたいです。

子供たちが泥だらけになっても洗う所がなくて、田んぼの水で手と長靴を洗ってもらいました。来年は何か方法を考えないといけないと思いました。

【体験交流型】

南砺市吉江地域づくり協議会

3世代交流	各種団体との連携	文化継承活動	自然体験活動	ふるさとの学び
○	○	○	○	

◆事業の目的

同じ校区内（山田、北山田、吉江）の子供たちが親や祖父母の三世代で物の生育から収穫までを体感し（さつま芋の定植・収穫）、労働の大切さや農作物の成長の喜びを実感する。また、古くからの日本の伝統や風習を若い世代へ伝えることで維持継承に繋がる。

◆事業の流れ

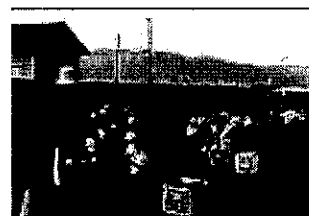
実施日	活動名	場所	参加人数
5月23日(日)	さつま芋苗植え付け	鍛冶地内(北山田地内)	40名
10月2日(日)	さつま芋掘り	鍛冶地内(北山田地内)	61名
12月18日(土)	しめ縄飾り作り	吉江交流センター	20名
12月19日(日)	多世代交流クリスマスお楽しみ会	温知交流館(北山田地内)	74名

◆事業の様子

☆ さつま芋苗植え付け、芋掘り

さつま芋苗植え付けを学び、一つ一つ丁寧に植え付けました。

収穫は予定していた日の天候が悪く一週間遅らせての実施となりましたが、参加した親子は汗をかきながら協力し合いたくさんのさつま芋の収穫をすることができ、収穫の喜びを分かち合うことが出来ました。



☆ お正月しめ縄飾り作り

古くから日本の伝統、風習として飾られてきた「注連縄飾り」の意味を学びながら、縄を縛うことから体験しました。参加した親子は、協力しながら縄を縛い、各々で個性あふれる飾付をして注連縄飾りを完成させました。完成品を眺める親子の表情は、達成感で溢れていました。



☆ 多世代交流クリスマスお楽しみ会

毎年行っている昔から伝わる、杵と臼を使つての餅つき体験を今年はコロナウィルス感染症の影響で体験することが出来ない為、代わりに多世代交流事業としてクリスマス会を兼ねて、おはぎ作り体験を行いました。子供たち、お父さん、お母さんに加え、お爺ちゃん、お婆ちゃん多世代でもち米をつぶし、あんこ、きなこ、胡麻をまぶし美味しそうなおはぎが出来上がりました。作り終えた後はクリスマス会で楽しみました。



◆事業の成果と課題

事業を通して、地域の方々と子供たちの顔を合わせる機会が増え、徐々に気軽に挨拶や会話が增多していることが目に見えて分かります。ただ、毎回お世話をして頂いている方々は高齢者が多く、中間層の年代の方々にも参加していただくにはどうしたらよいか今後の課題の一つだと感じます。

【体験交流型】

南砺市広瀬館地域づくり協議会

3世代交流	各種団体との連携	文化継承活動	自然体験活動	ふるさとの学び
○	○		○	

◆事業の目的

地元の保育園児、小学生の児童対象に、物作り体験や自然体験を通して、親子、三世代での交流と、異世代での交流を図る為。

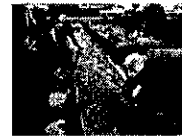
◆事業の流れ

実施日	活動名	場所	参加人数
5月22日(土)	サツマイモ、里芋植え	広瀬館祖谷地内	18名
10月23日(土)	サツマイモ掘り、焼き芋	広瀬館交流センター	51名
12月4日(土)	クリスマスリース作り	広瀬館交流センター	25名
12月25日(土)	親子でミニ門松作り	広瀬館交流センター	15名

◆事業の様子

☆ サツマイモ植え、里芋植え、サツマイモ掘り、焼き芋

前日に圃場に施肥及びマルチ掛けを実施。当日は、雨天の為親子での活動は実施出来ず、成人クラブ、農協青年部、職員で、サツマイモは20cm間隔に、里芋は40cm間隔に穴をあけて2品種を植えました。今年は、サツマイモを秋に収穫して、焚火で焼き芋をして、火の大切さを子供たちに体験してもらいました。



☆ クリスマスリース作り

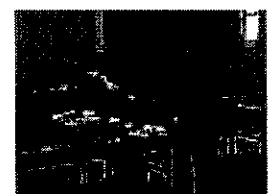
今年のリース作りのお花はアーティフィシャルフラワーと言う人工的に創作した花を使い、思い思いの感覚でリース作りを楽しんでいました。保育園児から70代までと幅広い参加でした。

子供たちは、大人では、考えられないような感性豊かな作品もあり、親子のみではなく、異世代交流での体験はとても効果的だと思いました。



☆ 親子でミニ門松づくり

門松の土台に細い竹、松の葉を動かさない様に、全体のバランス等考えながらの作業はとても、時間がかかりました。世界に一つしかない自分たちだけの門松作りを親子で楽しみ、とても良い機会になったと思いました。



◆事業の成果と課題

昨年からの新型コロナウイルス感染症拡大の為、予定していた事業が中止になり、参加人数が少なくなったように思いますが、三密を避け、検温、手指消毒、マスク着用での開催でしたが、子供たちや異世代交流の行事ができ、子供たちの楽しそうな様子を見ることが出来て良かったと思います。課題としては、野外での活動が出来るようになれば良いと思います。

南砺市南山見地域づくり協議会

3世代交流	各種団体との連携	文化継承活動	自然体験活動	ふるさと学習
○	○	○		○

◆事業の目的

子供たちが少なくなっていく現状の中で、地域の大人たちと共に活動し、親睦を深めることで地域に根付いている行事を守り育てる。

◆事業の流れ

実施日	活動名	場所	参加人数
7月22日(木)	三世代交流ミニマラソン・ラジオ体操、タイムカプセル開封	南山見交流センター	70名
10月27日(日)	親子炊き出し訓練・消防団との交流	南山見交流センター	60名
11月7日(日)	親子チューリップ球根植栽・花壇作り	南山見交流センター	30名
11月21日(日)	地区八乙女文化祭、作品作り	南山見交流センター・体育館	150名

◆事業の様子

☆ 三世代交流ミニマラソン・ラジオ体操、タイムカプセル開封
三世代交流ミニマラソン・ラジオ体操終了後、31年前に埋めたタイムカプセルを開封しました。子供たちも、両親や祖父母の品物を見つけて、懐かしんでいました。



☆ 親子炊き出し訓練・消防団との交流
災害時に備えて、炊き出し訓練を行いました。赤十字奉仕団の方々から、非常食用のおにぎり作りを体験しました。今年、地元消防団との交流も行いました。



☆ 親子チューリップ球根植栽・花壇作り
2年ぶりに、恒例の交流センターの花壇作りを行ないました。グリーンパークさんに作業方法を教えてもらいながら、プランターへのチューリップ球根植えと花壇へのピオラの植栽を行いました。



☆ 地区八乙女文化祭、作品作り
2年ぶりの地区八乙女文化祭がコロナ禍の中、規模を縮小して実施した。久々に多くの地区民が参加し、交流を深めることができました。子供たちは、CDを利用してコマを作り、展示室に飾りました。来年は、コロナが終息し、舞台発表もできることを祈っています。



◆事業の成果と課題

今年もコロナ禍ではありましたが、昨年と違い、いくつかの行事を工夫しながら開催することができました。子供たちの思い出作りの一助になれば幸いです。

【体験交流型】

南砺市石黒地域づくり協議会

3世代交流	各種団体との連携	文化継承活動	自然体験活動	ふるさとの学び
○	○	○		

◆事業の目的

はつらつ公民館学び支援事業を通して地域住民との深い繋がり、そして精神的健康維持の促進。
また、これからの高齢化地域を担う子供たちに先人が行ってきた伝統文化を維持・継承することが、
地域の発展・活性化が行える。非常に重要な支援事業と位置づけております。

◆事業の流れ

実施日	活動名	場所	参加人数
6月16日(水) 10月18日(月)	さつまいも苗植え さつまいも掘り	道の駅福光農園	96名
8月4日(水) ～6日(金)	石黒寺子屋	石黒交流センター	87名
9月24日(金)	絵手紙教室 3回実施	石黒交流センター	15名
12月19日(日)	しめ縄飾り作り	石黒交流センター	21名

◆事業の様子

☆ さつまいも苗植え/さつまいも掘り

福光農園にてどんぐり保育園青組園児 41名による、6月の苗植え
10月に さつまいも掘り体験を実施しました。

農園の方から植え方を教わり、苗を傷付けないように深く植える事
の大切さ、そして作業の大変を学ぶ事ができました。

いも掘り体験からは 友達どうし知恵を出しあい、協力しながらの
いも掘り、その中から収穫の喜びを実体験する機会となった。

☆ 石黒寺子屋

夏休み中の子供たちに宿題や各人課題を持ち寄り、寺子屋を開催。
おしゃべり禁止等のルールを守り、黙々と課題に取り組む姿に感動し
最終日には市の移動図書館にも来て頂き、紙芝居や手遊びの催し物を
して頂き、子供たちの笑顔が素敵な3日間でした。

☆ 絵手紙教室 (9/24, 10/8, 10/22 の3回実施)

今年は感染対策を取りながら少人数 (5人/回) で実施。
初めての方もおられ 四苦八苦での挑戦でしたが、下手は下手なり
の味のある作品に仕上がりました。

☆ しめ縄飾り作り (3世代交流催し)

新型コロナの関係で参加者を21名 (内 子供4名) にて実施。
講師の中村様から、昔から伝わる日本の伝統文化のしめ縄について
の説明がありました。
藁を捻って縄を作るのが難しく、苦勞している様子が伺えました。
水引、紙垂を取付け思い通りのしめ縄飾りができました。



◆事業の成果と課題

一昨年は 新型コロナにより、活動の中止が相継ぎましたが、今年度は感染拡大防止対策をしながらの活動になり、コロナ禍と言って止めるのではなく、「地域団体との連携」・「世代間・地域間の交流」・「伝統文化の維持・継承」等、続ける事の意義を感じさせる1年であった。

【体験交流型】

南砺市北野地域づくり協議会

3世代交流	各種団体との連携	文化継承活動	自然体験活動	ふるさとの学び
	○	○	○	○

◆事業の目的

チビッコ太鼓教室では、地域に伝わる伝統文化の北野式年太鼓の伝承を目的に、経験や年齢で班別に練習し、成果を発表する。自然体験を目的に農協青年部北野支部の協力にて圃場でさつまいもを掘り、収穫を体験する。

◆事業の流れ

実施日	活動名	場所	参加人数
7月22日(木)～8月5日(木) 10月20日(水)～11月6日(水)	チビッコ太鼓教室	北野交流センター 軽体育室	648名
10月24日(日)	さつまいも収穫体験	北野地区圃場	36名
11月7日(日)	チビッコ太鼓教室発表会	北野交流センター 軽体育室	113名

◆事業の様子

☆ チビッコ太鼓教室

地域に伝わる伝統文化の北野式年太鼓の伝承を目的に実施した。経験や年齢で班別に練習を重ね、子ども同士、地域の大人とのつながりが深まった。

新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け中断したが、10月に再開し発表会に向けて練習した。



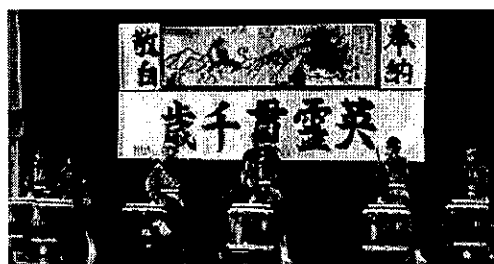
☆ さつまいも収穫体験

農協青年部北野支部の協力のもと実施。さつまいもの種類、葉や茎の説明や収穫の仕方を教わった。収穫したさつまいもは家庭で味わい、食物の大切さや感謝の気持ちを持つ良い機会となった。



☆ チビッコ太鼓教室発表会

新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け毎年実施していた「越中北野天満宮秋季例大祭」での奉納太鼓が中止になり、代替として発表会を実施した。



◆事業の成果と課題

各事業とも新型コロナウイルス感染拡大防止の対策をして実施した。チビッコ太鼓教室では感染拡大の影響を受け教室を中断、10月から再開した。参加児童は粘り強く練習に取り組み、その成果を保護者や地域の方に披露し達成感を得ることができた。さつまいも収穫体験では、小学生、保育園児の親子の多数の参加があり有意義なものとなった。今後も、これらの事業を継続するために各団体、保護者との連携をより深めたい。

【体験交流型】

南砺市山野地域づくり協議会

3世代交流	各種団体との連携	文化継承活動	自然体験活動	ふるさとの学び
○				

◆事業の目的

砺波平野の散居村地区である山野地区は広々とした田園地区です。コメはもちろんのこと里芋栽培が盛んです。山野交流センターが中心となり、里芋・サツマイモ栽培を通して、地域住民の皆さまに農業体験と3世代交流を行っていただき、子供たち・非農家の方達に農業に対する関心を高めることを目的に事業を実施しました。

◆事業の流れ

実施日	活動名	場所	参加人数
5月15日(土)	里芋植付け	南砺市安室89-1	15名
6月7日(月)	イチゴ狩り	山野保育園圃場	19名
10月25日(月)	里芋掘り取り	南砺市安室89-1	20名

◆事業の様子

☆ 5月15日(土) 里芋植付け

15名の方々が参加し、予め整備していたうねに種芋を植え付けました。



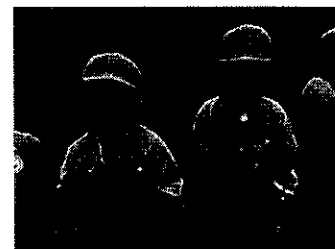
☆ 6月7日(月) イチゴ狩り

保育園の園児12名とイチゴ狩りを楽しみました。子供達からは宝探しのように見つけると、至る所から歓声が上がりました。



☆ 10月25日(月) 里芋掘り取り

園児たち11名と里芋サツマイモを掘り取りました。大きな芋の収穫に歓声が上がりました。



◆事業の成果と課題

成果 子供たちと地域住民の交流を図るという目的は達成されましたので、有意義だったと思います。今後もこの取組みを地域で継続して行きます。

課題 住民への告知が浸透せず、想定よりも少ない人数でした。持って告知に力を入れ園児たちの保護者層の参加を増やすように努めたいと考えました。

【体験交流型】

舟橋村立舟橋村公民館

3世代交流	各種団体との連携	文化継承活動	自然体験活動	ふるさとの学び
○			○	○

◆事業の目的

- ・親子での農業体験をとおして、野菜作りの手順や農作業の大変さを学ぶ。
- ・農業従事者の指導を受けながら活動することで、親子世代と高齢者の交流を深める。
- ・地域の自然環境や農業に対する関心を高め、ふるさとへの関心や愛着を育む。

◆事業の流れ

実施日	活動名	場所	参加人数
5月23日(日)	「わくわく農業体験」	地域内の畑	20名
7月18日(日)			16名
8月8日(日)			15名
10月10日(日)			16名
10月23日(土)	地域の特産野菜でおやつ作り	舟橋会館	20名

◆事業の様子

☆ わくわく農業体験

地域の農業従事者の指導のもと、近くの畑で枝豆の種まきやサツマイモの苗植え、除草等の世話、ジャガイモやサツマイモ掘り、枝豆の収穫などの農業体験を実施した。天候にも恵まれて、汗をかきながら親子で熱心に作業に取り組む姿が見られ、収穫時には充実感・達成感に溢れていた。



☆ 地域の特産野菜でおやつ作り

舟橋村の特産野菜「ハートかぼちゃ」を使って、ハロウィンにちなんだ「かぼちゃマフィン」作りを行った。栄養士さんの指導のもと、親子でかぼちゃ、小麦粉、バターなどを入れて混ぜた生地を焼き、最後にマシュマロ等を飾り付けて出来上がり。手作りしたおやつは、親子で大事そうに家へ持ち帰った。



◆事業の成果と課題

- ・今年度初めて地域内の畑で野菜作りの農業体験をシリーズ化して実施した。種まき・苗植えから収穫までの一連の作業を体験することで、野菜作りの手順を学ぶとともに、収穫の喜びを味わうことができた。農業従事者の方の地域への思いと多大な協力を得たからこそ実現できた事業であった。
- ・広々とした畑で農家の方と親子が一緒に行う農業体験を通して、普段家ではできないふれあいができてよかったという感想が聞かれた。また、畑のそばを通るたびに野菜の様子を気にかけるなど、体験やふれあいを通してふるさとへの愛着・関心を高めることができた。

【体験交流型】

上市町立柿沢公民館

3世代交流	各種団体との連携	文化継承活動	自然体験活動	ふるさとの学び
○	○		○	

◆事業の目的

- ・竹を切ってお米からご飯を炊くという自然体験活動に触れる。
- ・親子で力を合わせて物事に取り組む。
- ・子供たちが自分たちに関わって下さる全ての人に感謝の気持ちを持つ。

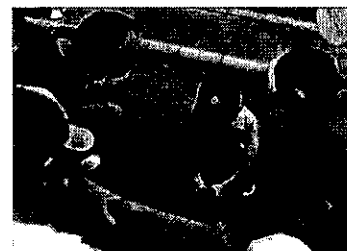
◆事業の流れ

実施日	活動名	場所	参加人数
6月20日(日)	竹でご飯を炊こう	柿沢地区会館	53名
7月21日(水)	七夕飾り	柿沢地区会館	25名

◆事業の様子

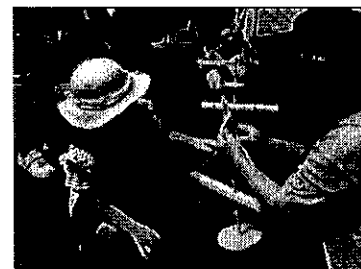
☆ 竹でご飯を炊こう

地区有志の方より竹を提供していただき、親子で力を合わせて竹の器や箸を作った。ノコギリを持つことが初めての子供がほとんどだったが、持ち方・使い方をすぐにマスターして竹切りに挑戦できた。



☆ 火起こし体験

火起こしキットを使って人力で火起こしをした。煙は出るがなかなか火種が作れず苦労したが、火が点いた時には歓声があがっていた。



☆ 七夕飾り

短冊に思い思いの願い事を書いた。「コロナがおさまりますように」という短冊が多く見受けられ、子供たちも1日も早くコロナが終息してマスクなしで過ごせる日を願っている事が伝わった。8月には七夕の集いを行い、七夕に関するクイズを楽しみながら、伝統行事を大切にすることを意識を高めた。



◆事業の成果と課題

感染対策に十分に留意して行事を開催した。小規模校の特性からか、保護者同士も和気あいあいとして笑顔の絶えない時間だったように思う。

家庭ではなかなか体験できないことを小学校の仲間・保護者と一緒に体験できる事業を今後も取り入れて行こうと思う。

【体験交流型】

入善町 飯野公民館

3世代交流	各種団体との連携	文化継承活動	自然体験活動	ふるさとの学び
	○		○	○

◆事業の目的

- ・異世代が一斉に集い活動することによって、世代間の交流を促すとともに、地区住民相互の交流を深める。
- ・地区にある自然環境について知識を深めることにより、郷土に対する愛情を育む。

◆事業の流れ

実施日	活動名	場所	参加人数
10月3日(日)	三世代交流会	飯野公民館	中止
11月21日(日)	親子バードウォッチング	黒部川河口等	28名

◆事業の様子

☆3世代交流会

9月24日(金)に「令和3年度飯野地区三世代交流会」実行委員会を開催し、飯野小学校長、飯野小学校PTA会長、飯野地区社会福祉協議会長、飯野地区区長会および飯野地区福寿会長と活動について協議をした。

その結果、9/24時点で新型コロナウイルス感染警戒レベルが県ロードマップのステージ3であり、不特定多数との密な状態を避けるため、今年度も開催は見合わせることにした。

☆親子バードウォッチング

入善公民館との協業事業として、本事業を実施した。10月1日に飯野小学校と入善公民館に募集チラシを配布して、参加の呼びかけを行った。飯野小学校からは13名、入善公民館からは15名参加した。

日本野鳥の会会員である笹島裕子氏を講師に迎え、独自に作成されたポケット図鑑を参考にして説明を受けた。渡り鳥の中継地である黒部川河口の植物の特性や渡り鳥の特徴や見分け方についてフィールドスコープで実際の野鳥を見ながら説明を受けた。

◆事業の成果と課題

〈成果〉

- ・親子バードウォッチングでは、改めて自分たちが住む地区の自然の希有さに気づき、地区に対する愛情を深めることができた。

〈課題〉

- ・区内の住民数の減少により、各種行事の担い手が不足しつつある。各種団体との協業事業もあるので、内容について精査し、まとめられるものはまとめるなど、精選に努める必要を感じる。

【体験交流型】

入善町 上原公民館

3世代交流	各種団体との連携	文化継承活動	自然体験活動	ふるさとの学び
○	○	○		○

◆事業の目的

三世代・地域の方々との交流を通して絆を深めるとともに、ふるさとの誇りと愛着を育む。

◆事業の流れ

実施日	活動名	場所	参加人数
10月17日(日)	ウォークベースボール大会	コロナの為中止	-名
11月6日(土)	そば打ち教室	上原公民館	20名
12月4日(土)	大型紙芝居とミニコンサート	上原公民館	52名
12月18日(土)	しめ飾り教室	上原公民館	20名

◆事業の様子

☆ そば打ち教室

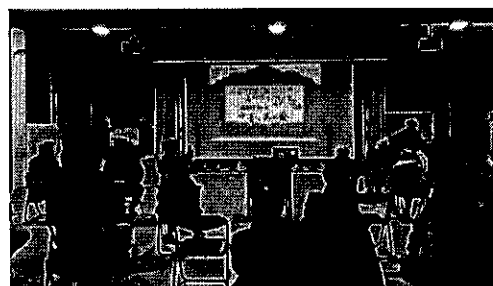
そば打ち道場のみなさんの協力を得て実施した。そば粉と水の量が大切であると指導を受ける。出来たそばは、細い太いがあったが、自分たちの打ったそばは、格別で大変美味しく満足顔であった。



☆ 大型紙芝居とミニコンサート

民話を語る「青い鳥の会」の紙芝居とシンガーの英樹さんのコラボを実施した。民話の題材は、近隣市町の民話を大型紙芝居にしたものである。昔から伝わる地区の民話や英樹さんの歌や演奏を楽しんだ。

今回初めて地区の介護施設の入所者の参加があり、交流を深めることができた。



☆ しめ飾り教室

新年に飾るしめ飾りを、講師の先生の指導の下、しめ飾りを作り上げた。子供は縄をなうのがうまくいかず、お父さんの手ほどきで完成した。

「さすが、お父さん」と声があった。



◆事業の成果と課題

「そば打ち体験」や「紙芝居」、「しめ飾り作り体験」など、三世代・地域の方々、親子のふれあいなど絆を深めることができた。また、今年初めて「紙芝居」に地区の介護施設に入所されているおじいちゃん、おばあちゃんの参加があり、交流が深まった。今後この様に介護施設の方々へも参加の声掛けを進めていきたい。